

# Disclosure 2014

ディスクロージャー誌



## ふくほうのシンボルマーク

グリーンは地域の発展を示し、白とグリーンで円を描いている部分は、皆様と当行のふれあいを表しております。この三角と円のハーモニーによって全体にイメージされる「F」のデザインは、地域と皆様の繁栄に貢献し、未来永久に幸せをもたらしていきたいという当行の決意を示しております。

## The Fukuho Bank, Ltd.

発行/平成26年7月  
編集/株式会社 福邦銀行 企画部  
〒910-0023 福井市順化1-6-9  
TEL/0776-21-2500 (代表)  
<http://www.fukuho.co.jp>



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用  
しています。



この印刷には、  
環境に配慮した  
植物油インキを  
使用しております。





取締役会長 三田村俊文  
取締役頭取 東条 敬

日頃は福邦銀行をお引き立ていただき誠にありがとうございます。  
このたび当行の経営方針や業績の概要などをまとめた「ディスクロージャー誌2014」を作成いたしました。ご高覧賜れば幸いです。

さて、平成26年3月期決算におきましては、現政権による経済対策と緩和的な金融環境により、国内需要は堅調に推移し、海外経済は減速した状態から次第に脱していくこと等を背景に、緩やかに回復してまいりました。後半に入りますと緩和的な金融環境や消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられ、個人消費や公共投資などの内需は堅調に推移いたしました。一方で輸出も力強さには欠けるものの持ち直しつつあり、日本経済は全体として緩やかな回復を続けてきております。

福井県内経済においては、製造業・化学が高水準の生産を続けております。個人消費は消費者マインドが改善するもとで緩やかに持ち直しており、住宅投資は増加し、企業設備投資は底堅さを維持しております。先行きについては、国内需要の底堅さと海外経済の持ち直しを背景に、全体としては緩やかに回復しております。

このような中、当行グループは「地域密着の徹底による経営強化」を基本方針に、地域経済の活性化を通じて、「地域のお客さまとともに成長する銀行」を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年7月

CONTENTS

ごあいさつ、プロフィール…………… 1  
経営理念・基本戦略…………… 2  
業績ハイライト…………… 3  
資産査定状況・経営強化計画について…………… 5  
経営の組織…………… 6  
地域のお客さまとともに…………… 7  
地域密着型金融の推進…………… 9  
コーポレート・ガバナンス…………… 11  
プライバシーポリシーほか…………… 14  
関係会社の状況・沿革…………… 15  
店舗一覧…………… 16  
主な業務内容・役員…………… 17  
資料編…………… 18

プロフィール

(平成26年3月末現在/単体ベース)

名称	株式会社福邦銀行
	THE FUKUHO BANK, LTD.
本店所在地	福井市順化1丁目6番9号
創立	昭和18年11月5日
資本金	73億円
総資産	4,495億円
預金	4,176億円
貸出金	3,191億円
自己資本比率	8.75% (国内基準)
店舗数	39カ店
従業員数	511名

経営理念

地域社会への貢献

私どもは幸せな人間生活と豊かな社会づくりに貢献することを銀行活動の使命とします。

健全なる経営

銀行の発展は、地域社会への貢献の証しであり、私どもの存在を可能とするため、より健全な経営に心がけます。

活力ある職場

私どもが人間として尊厳を勝ちとるための練成の場として、明るく活力ある職場づくりに努めます。

福邦の心

至誠の心

信頼の絆と責任を自覚し、お客様にまごころを尽くします。

和の心

お互いの立場を理解し、喜びを分かち合う心を育てます。

進取の心

変化に対応する熱意と挑戦する心を養います。

共存共栄の心

お客様第一に徹し、共存共栄の心で奉仕します。

目指す銀行像

地域のお客さまとともに成長する銀行

基本戦略

地域密着の徹底による経営強化

～お客様第一に徹し、福井県内でのシェアを高めていく～

地域のお客さまに信頼されるために

「収益力」を高め、安定した収益により自己資本を積み上げていきます。

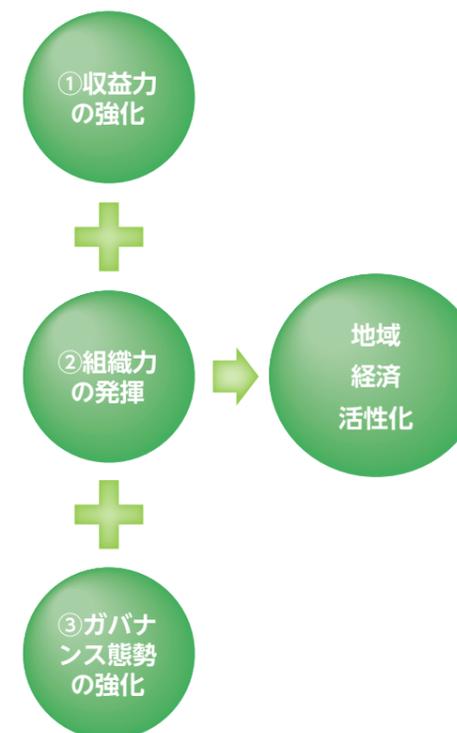
地域のお客さまに相談されるために

成長志向の専門性ある行員が、責任をもって、ご相談に承ります。

地域のお客さまの成長のために

「組織力」「機動力」を発揮し、スピードある解決提案を行なっていきます。

- (1)資金利益の増加
  - ・事業者、個人向け貸出増加
  - ・経営改善支援取組の深化
  - ・預金取引の増加
  - ・有価証券運用の強化
- (2)役務収益の増加
- (3)経営効率化
  - ・業務効率化
  - ・経費削減
- (1)人材の育成
  - ・営業力・目利き能力の強化
  - ・専門知識の習得の奨励
  - ・管理職以上のマネジメント強化
  - ・行職員全体の活躍
- (2)機動力の発揮
  - ・組織横断的チームによる改善活動
  - ・WEB・システムの活用
- (1)自己資本管理
  - ・株式上場準備
- (2)リスク管理態勢の整備
  - ・統一的リスク、信用リスク、市場リスクの適切な管理と高度化
- (3)内部統制の堅確化
  - ・業務執行に対する監査・監督の強化
  - ・法令等遵守、顧客保護等態勢の整備

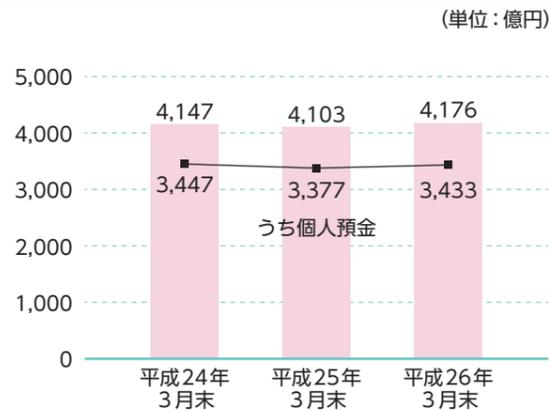


# 業績ハイライト

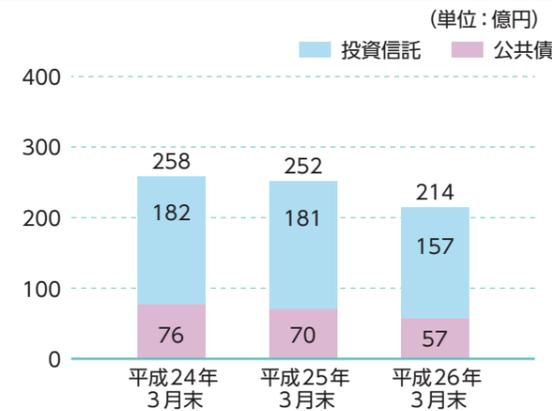
## ■ 預金等の状況 (単体)

預金残高は、個人預金が増加したことにより、前期末比72億円増加の4,176億円となりました。  
 預かり資産残高は、公共債及び投資信託共に減少し、前期末比37億円減少の214億円となりました。

預金残高の推移



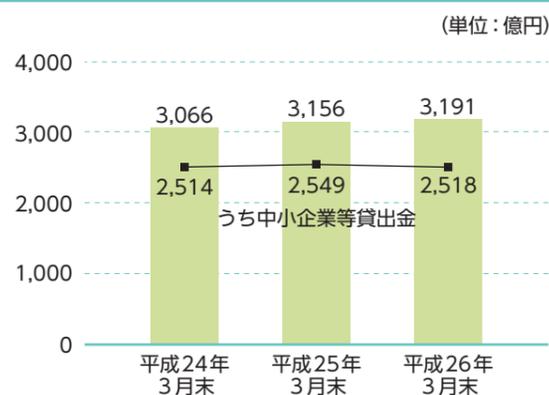
預かり資産残高の推移



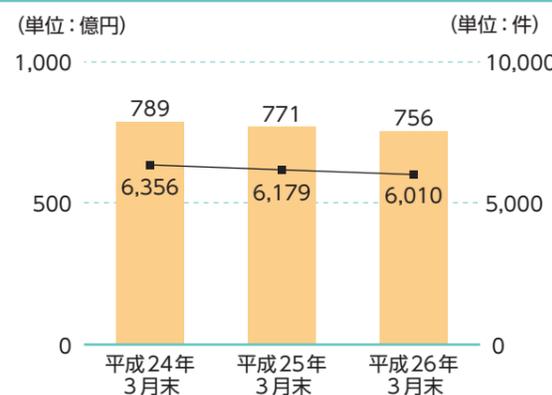
## ■ 貸出金の状況 (単体)

貸出金残高は、事業性貸出が増加したことから、前期末比35億円増加の3,191億円となりました。

貸出金残高の推移



住宅ローン残高・件数の推移



(注) 中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社または常用する従業員が300人(ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人)以下の企業等です。

## ■ 損益の状況 (単体)

銀行の本業部分の収支を示すコア業務純益は、役員取引等利益の増加及び経費の削減により、前期比2億53百万円増加し、15億75百万円となりました。

経常利益は、コア業務純益の増加に加え、与信関係費用が減少したことにより、前期比6億30百万円増加の16億86百万円となりました。

当期純利益は、経常利益の増加により前期比2億88百万円増加し、11億48百万円となりました。

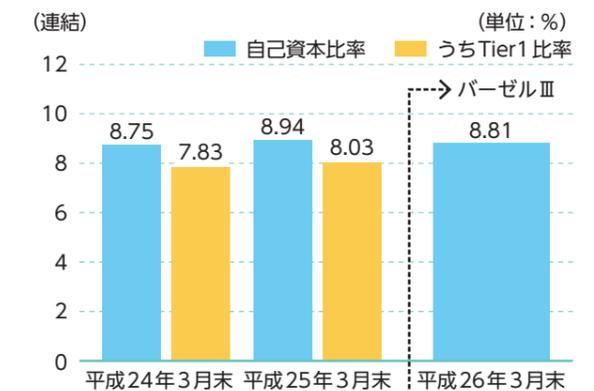
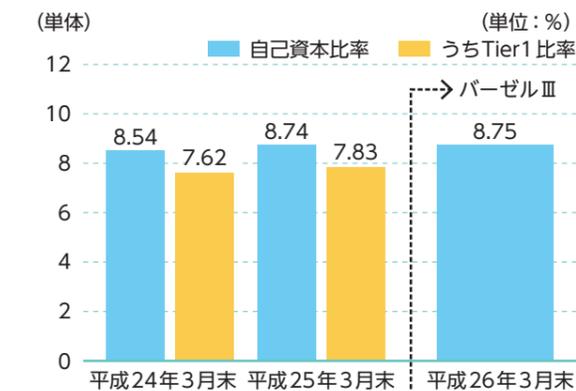
コア業務純益 (単位: 百万円)		経常利益 (単位: 百万円)		当期純利益 (単位: 百万円)	
平成24年3月期	1,590	平成24年3月期	769	平成24年3月期	625
平成25年3月期	1,321	平成25年3月期	1,056	平成25年3月期	860
平成26年3月期	1,575	平成26年3月期	1,686	平成26年3月期	1,148

用語解説 (コア業務純益)  
 銀行本来の業務であげた利益から、業務を行う上でかかった経費と一時的な変動要因(債券関係損益と一般貸倒引当金繰入額)を差し引いたものです。

## ■ 自己資本比率の状況 (国内基準)

自己資本比率は銀行の安全性・健全性を示す重要な指標のひとつです。当行のように海外に支店を持たない銀行は国内基準の4%以上が義務付けられております。平成26年3月末のリスク・アセット(万一の場合、貸倒れの危険性のある資産)に対する自己資本の額は銀行単体188億円、連結190億円、自己資本比率は単体8.75%、連結8.81%となっております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、平成26年3月末より新しい自己資本比率規制(バーゼルⅢ新国内基準)により自己資本比率を算出しております。



## ■ 対処すべき課題

健全な経営体質を構築することが当行にとっての重要課題であると考えております。また、中小規模事業者のお客様に対する円滑な資金供給や地域経済の活性化への貢献を通じて、地域社会の発展に必要な存在として、お客様からの一層の信頼向上に努める必要があります。

当行グループは現在、経営強化計画に基づき以下の項目に取り組み、健全な経営体質の構築に努めております。

- ①収益力の強化
  - ・お客様との接点強化と商品・サービス提供力の強化を通じて、全員営業の力による中小企業・個人取引の拡充を行い、収益力を向上させます。
  - ・抜本的な見直しによる業務の効率化、ローコスト経営と収益管理を進め、収益体質の改善を目指します。
- ②組織力の発揮
  - ・営業店・本部体制の再編を通じ、お客様との接点増加、相談・解決力の提供強化、意思決定のスピード向上、人材育成のための体制を整備するなど、組織力をより発揮できる仕組み作りを行うことで、全体最適を目指します。
- ③ガバナンス態勢の強化
  - ・企業価値の向上に向けてお客様からの信頼を担保していくためには、行内における法令遵守意識の徹底、経営の透明性確保、適正な相互牽制機能の発揮が極めて重要であるとの認識から、一層のコンプライアンスの強化、リスク管理の高度化、内部統制態勢の堅確化を進めます。

# 資産査定状況・経営強化計画について

## ■ 資産査定状況

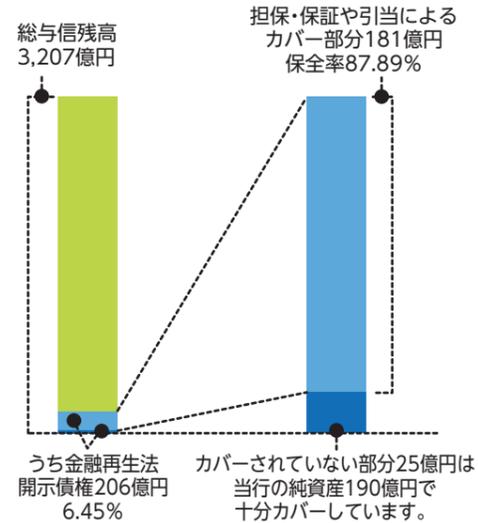
当行は、貸出金などの資産の価値に対して厳しく査定を行い適正な償却・引当を実施しております。また、積極的にお取引先に対する経営支援を強化しております。平成26年3月末の金融再生法開示債権は前期末比9億円減少の206億円となりました。

なお、金融再生法開示債権206億円には、担保保証のほか、将来的に損失を被ることに備え、すでに費用として引当てしている部分も含まれております。開示債権に対する保全額は181億円、保全率は87.89%あり、将来的な損失にも十分に備えております。

### 金融再生法に基づく開示債権額

(単位：百万円)

	平成24年3月末	平成25年3月末	平成26年3月末
金融再生法開示債権合計	22,782	21,624	20,692
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,227	2,519	1,987
危険債権	18,860	17,378	16,462
要管理債権	694	1,725	2,242
保全額	21,206	19,664	18,187
貸倒引当金	4,446	5,216	4,910
担保保証等	16,759	14,448	13,276
総与信残高(未残)	309,029	317,544	320,775



- ※①破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権
- ②危険債権とは債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権
- ③要管理債権とは3ヵ月以上延滞債権（元金または利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出債権）および貸出条件緩和債権（経済的困難に陥った債務者の再建または支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定などを行った貸出債権）（注）いずれも①②を除く。

## ■ 経営強化計画について

平成23年8月に公表した経営強化計画に基づいた様々な施策に積極的に取り組んでまいります。その中での経営改善の目標値として、収益性においてはコア業務純益ROAの向上、業務の効率性においては業務粗利益経費率の改善を掲げ、活動を進めてまいりました。

### (1) 収益性を示す指標

(単位：%)

	平成26年3月期計画
コア業務純益ROA	0.48

※コア業務純益ROA=コア業務純益/総資産平残

### (2) 業務の効率性を示す指標

(単位：%)

	平成26年3月期計画
業務粗利益経費率	60.65

※業務粗利益経費率=(経費-機械化関連費用)/業務粗利益

## ■ 経営諮問委員会の設置

当行では、取締役会の諮問機関として経営諮問委員会を設置しております。外部有識者の方から、地域への信用供与の円滑化や地域経済活性化に向けた経営戦略など、客観的な立場で評価および助言・提言をいただきます。助言等は経営に反映することで経営の客観性と透明性を高めてまいります。第11回の同委員会は平成26年7月に開催いたしました。経営強化計画の履行状況報告書（平成26年3月）についての説明のほか、次期経営強化計画の基本戦略について各委員の皆様からご意見等をいただきました。概要は当行ホームページでご覧になれます。

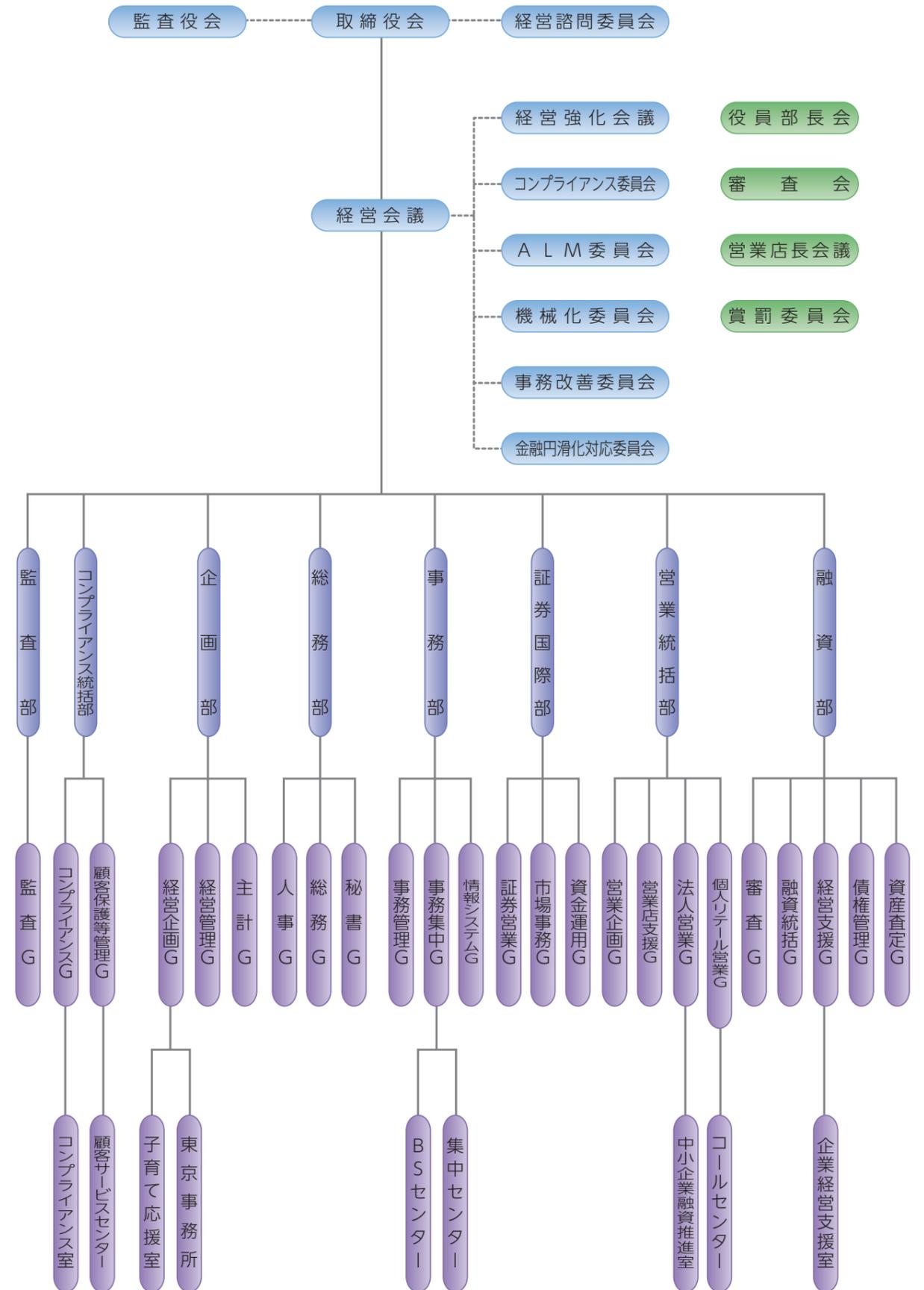
### 〈構成委員〉

(五十音順、敬称略)

委員名	公職・役職等
児嶋 眞平	京都大学名誉教授、福井大学名誉教授、元福井大学学長
増田 仁視	元福井経済同友会代表幹事、増田公認会計士事務所所長
山本 雅俊	元福井県副知事、元公益財団法人ふくい産業支援センター理事長

# 経営の組織

## ■ 組織図 (平成26年6月27日現在)



# 地域のお客さまとともに

## 創立70周年を迎えて

平成25年度は、創立70周年記念の感謝を込めて、さまざまな記念事業を行いました。

### ■ お客さま感謝デーの開催

日頃のご愛顧に感謝を込めて、全店でお客さま感謝デーを開催いたしました。



春江支店のお客さま感謝デー

### ■ 「地域貢献特別ファンド」の創設

平成25年度は、地域の環境改善や産業活性化、雇用創出に貢献する設備投資等を実施した企業を応援する「地域貢献特別ファンド」を創設（平成25年3月～平成26年3月）し、新規融資を積極的に取り組みました。

### ■ 「福井ふるさとネットサービス」の開始

平成19年10月よりスタートした、当行を含む県内金融機関（当行、福井銀行、福井県内の5信用金庫）とのATM等相互開放を実施し、ATM等での出金手数料を無料としております。26年2月4日（火）より、新たに福井県JAバンクが加わり、8金融機関でのATM相互無料開放となり、お客さまの利便性がより高まることになりました。

## 福井ふるさとネットサービス

### ATM手数料【終日0円!】

（お振込の場合は各行庫所定の振込手数料が必要です）

提携金融機関

福井銀行・福邦銀行  
福井信用金庫・敦賀信用金庫  
武生信用金庫・小浜信用金庫  
越前信用金庫・福井県JAバンク(JA/信連)

※ご入金…福井銀行・福井県JAバンク(JA/信連)のカードではお取扱いたしていません。

※お振込…福井県JAバンク(JA/信連)のカードではお取扱いたしていません。

### ■ 「ホームページ」の全面リニューアル

創立記念日となる11月に、当行ホームページトップ画面リニューアルを行い、より内容を充実した分かりやすい内容での掲載といたしました。平成26年2月には「法人のお客さま」等をリニューアルし、同時に「個人のお客さま」向けに、スマートフォン対応も可能といたしました。



### ■ 「福井県応援ファンド」の取扱い

福井県に関連する企業の株式に投資し、地元経済の発展を応援する投資信託商品「福井県応援ファンド」を取扱っております。信託報酬の一部から毎年、日本赤十字社福井県支部の活動資金として、寄附を行っております。平成26年2月には、寄付金91万円を贈呈し、累計では1,256万円となりました。

### ■ CSRの取組み

地域金融機関として、環境保全に対する意識向上を図るため、役職員がそれぞれ近隣の清掃活動を行いました。



定羽川河川敷での清掃の様子

### ■ 「子育て応援バンクの取組み」

児童手当をお受け取りのお客さまを対象とした「児童手当受取口座のATM振込・利用手数料キャッシュバックサービス」をはじめ、各種ローンの子育て金利割引制度、子育て応援定期、子育て応援に積極的な企業さま向け事業性融資商品の金利割引を取り扱っております。



### ■ 「ふくほう投資信託セミナー」の開催

お客さまのNISA口座（少額投資非課税制度）活用および投資信託運用会社による運用報告セミナーを開催いたしました。

### ■ 「金融教育活動」

地域のお客さまの子育てを金融面から応援する取組みとして、嶺南地区では初めて「三方五湖キッズタウン」に参加いたしました。近隣地区の小学生を対象に、模擬の仕事体験を通じて、子どもたちに、地元企業を知ってもらうことを目的に開催され、当行も銀行の窓口業務や金融の仕組みについて一緒に学習しました。

また、各営業店では、地域の小学生を対象に「職場体験学習」も実施しております。



窓口業務の体験



入出金の体験



セミナーの様子

# 地域密着型金融の推進

当行では従来、お客さまとの間で長く続いた親密な関係を強化・維持し、ニーズに応じた金融サービスを提供する地域密着の推進を基本としております。主に、地元福井県での存在感を高め、かつ福井県の経済活性化に貢献できるよう、中小規模事業者等との恒常的な関わりを通じて、相談できる信頼関係を築き、経営課題を共有しながら成長・発展に向けた改善策を提案し、コンサルティング機能の発揮により円滑な信用供与に努めております。

また、同時に、中小規模事業者等のライフステージ（発展段階）や事業の持続可能性等を適切に見極め、最適なソリューションの提案に取り組んでおります。

## 1. 中小企業の経営支援に関する取組み状況

### 【創業・新事業開拓の支援】

- 認定支援機関と連携し、「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援資金」「創業補助金」、「ふるさと企業育成ファンド」等の公的制度を利用した事業化支援
- 日本政策金融公庫国民生活事業部と連携し、「中小企業経営力強化資金」を活用した障がい者就労継続支援事業創業等への支援

創業・新事業開拓支援	上期	下期
	13先	24先



新ものづくり補助金説明会

### 【成長段階における更なる支援】【事業再生支援】

- 公益財団法人ふくい産業支援センターと連携した移動経営相談会の実施
- 一般社団法人福井県中小企業診断士協会と連携した定例経営相談会の実施
- 近畿経済産業局、福井県発明協会と連携した「知財ビジネスマッチングマート個別商談会」の実施
- 中小企業再生支援協議会、認定支援機関、外部コンサルタント等と連携した事業再生支援

経営相談・早期事業再生支援	上期	下期
	171先	148先



知財ビジネスマッチングマート個別商談会

### 【事業承継支援】

- 独立行政法人中小企業基盤整備機構と連携した「知的資産経営報告書作成セミナー」の開催
- 業務提携する株式会社日本M&Aセンター、株式会社スターシップホールディングスと連携による事業承継支援

事業承継支援	上期	下期
	2先	2先

## 2. 地域の経済活性化への積極的な支援

### 【成長分野への支援】

- 「ふくほう成長基盤強化プログラム」の積極的な推進
- 中小企業基盤整備機構と連携した「海外展開セミナー」の開催
- 福井県立大学地域経済研究所、JETRO福井、JICA北陸支部と連携による海外情報提供支援

### 【ふるさと企業育成ファンド】

- 福井県に本店を置く金融機関と福井県が創設した地域独自のファンド「ふるさと企業育成ファンド」（新分野展開スタートアップ支援事業）（ものづくり人材育成修学資金貸付事業）の活用

### 【子育て応援バンクの取組み】

- 金融教育普及を目的に、地元小学生を対象とした「職場体験学習」の実施
- 子育て家族に対する応援
  - ・金利上乗せ定期預金「子育て応援定期預金」の販売
  - ・個人ローンの金利割引
  - ・児童手当受取口座に対するATMでの振込・利用手数料キャッシュバック



職場体験学習



体験教材

体験教材

## 3. 地域や利用者に対する積極的な情報発信

- 株主の皆さま、お客さまおよび地域社会の皆さまに当行の経営に対する理解を深めていただき、経営の透明性を確保することを目的として、プレスリリースやディスクローチャー誌、ホームページの掲載を通じて、迅速かつ充実した情報開示に取り組んでまいります。

## 4. 目標計数の達成状況

(単位：先数)

	平成25年上期			平成25年下期		
	目標	実績	目標対比	目標	実績	目標対比
経営改善支援等取組数	247	262	+15	257	265	+8
創業・新事業開拓支援	15	13	△2	15	24	+9
経営相談・早期事業再生支援	140	171	+31	140	148	+8
事業承継支援	2	2	0	2	2	0
担保・保証に依存しない融資推進	90	76	△14	100	91	△9